

高知県教育委員会 会議録

平成26年3月教育委員協議会

場所：高知県庁 正庁ホール

(1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成26年3月8日(土) 9:30

閉会 平成26年3月8日(土) 11:45

(2) 出席委員及び欠席委員の氏名

出席委員	教育委員長	小島 一久
	委員	久松 朋水
	委員	竹島 晶代
	委員	中橋 紅美
	委員(教育長)	中澤 卓史
欠席委員	委員	八田 章光

(3) 高知県教育委員会会議規則第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長(総括)	勝賀瀬 淳
〃	教育次長	中山 雅需
〃	参事兼小中学校課長	永野 隆史
〃	高等学校課長	藤中 雄輔
〃	高等学校課企画監	小野 広明
〃	教育政策課課長補佐	中平 貢正
〃	高等学校課課長補佐	竹村 謙
〃	高等学校課課長補佐	高野 和幸
〃	教育政策課チーフ	溝渕 松男(会議録作成)
〃	教育政策課主任指導主事	近森 公夫(会議録作成)

【冒頭】

委員長 教育委員協議会を開催する。

教育長 (協議内容の説明)

前回の協議会において、「保護者説明会」などのご意見等を踏まえ、丁寧な協議を進めていくため、①「なぜ学校を統合し、6学級以上を維持するのか」、②「なぜ高知南中学校・高校なのか」、③「統合の仕方」の3点について、より分かり易い資料をお示ししていくこととしていた。

本日は、このうち①「なぜ学校統合が必要か」、②「なぜ高知南中学校・高校なのか」についての考え方を整理し、併せて、「須崎高校と須崎工業高校の統合」についても考え方を整理したので、これについて協議をお願いしたい。

なお、「統合の仕方」については、もう少しお時間をいただきたい。

【協議 県立高等学校再編振興計画について（高等学校課）】

○高等学校課企画監 説明

○質疑

委員	<p>〈なぜ学校を統合し、6学級以上を維持するのか〉</p> <p>今まで4学級、6学級で議論していたが、今日の資料では4～5学級、6学級～8学級になっている。6学級と5学級に大きな差が出てくるのかと思えるが、6学級と5学級の間どんな違いが出てくるのか。</p> <p>また、以前に説明があったかもしれないが、統合の議論をする中で5学級という選択肢が出てこない理由を説明していただきたい。</p>
教育長	<p>今までは、県全体としては4～8学級を適正規模とし、中央部は6～8学級ということにしていたことから、その考え方の違いということで説明資料を作っている。</p> <p>5学級と6学級の違いについては、明確に線引きができていない。そういう質問も出てくると思うので整理しないといけないと思う。</p> <p>県全体として4～8学級にしているから、4学級からでいいのではないかという意見が保護者から出ており、それに対するお答えということでこのような資料にした。</p>
委員長	<p>教員定数上は明らかに差がある。国の算定基準は6学級が標準という感じになっている。</p>
教育長	<p>教員の配置に関しては、5学級と6学級でどれ位の違いが出てくるかは明確に出ている。ただ、生徒数が減った分などが部活動等、色々なことにどんな影響を及ぼすかはなかなか明確には出てこない。</p> <p>生徒数が減ることで、少しずつ色々な面で影響が出てくるので、その面からの整理になると思う。明確に出てこないが、減った分だけやりにくくなる。</p>
委員長	<p>奇数のクラスは非常に運営がやりにくい部分があることから、偶数クラスが多くなっていると思う。</p>
教育長	<p>県議会の一般質問や予算委員会で高校再編振興計画について、4人の議員から質問をいただいた。1人は須崎工業高校・須崎高校の関係の話だけだった。高知南中高校に関しては、3人の方が質問に立ち、それぞれ地域の意見や保護者、生徒の意見をお伺いしての質問があった。1つは手続き論で、「なぜこの時期なのか」、「公表の過程が突然であった」に対する質問や「なぜ中央部では6から8学級なのか」という質問が多かった。</p> <p>また、教員の定数問題については、国の配分で教員を配置しているわけだから、その他の部分は、県単独で予算を付けて教員を確保すればよいのではないかというご意見もあった。全体として見れば、過疎地域の小規模になった学校では、すでに無理をして教員を配置しており、さらに中央部でもその無理をしなければならなくなる。その無理がどこまでできるかになると、行政運営で考えるとそう簡単にはいかない。また、部活動の充実など生徒が切磋琢磨しながら成長</p>

<p>委員</p>	<p>できる環境の充実についてはお金でカバーできない。 小規模の学校ではいくつかの課題があり、1つ1つの課題だけを捉えたと何とか解決できるのではないかと思われるものも確かにあると思うが、それらの全てが重なって学校運営をしようとすれば、かなり無理がある。この部分についてはお金ではカバーができず、どうしても一定の規模が必要である。 我々は学校の設置者であり、様々な情報やルールに従って判断しながら学校運営をしているが、保護者、生徒のみなさんはそういうところは明るくなく、疑問に思われるところが確かにあると思う。その部分の説明は難しいと感じたので、委員が言われたことについても、丁寧にお答えをしなければならないと考えている。 高知南中高校を残した場合、今後10年間で中山間の学校がなくなると思う。そういうことも重点的に説明はされているのか。</p>
<p>委員</p>	<p>人口減少については、高知県は先進県であるので、他県と比較しても仕方がない。過疎地域については、一学年1学級20人以上で存続するようになっている。その学校におけるよりよい教育環境はどうか、教育の可能性の平等のことを考えると、非常に辛い。 人口減少のこともあり、分けて考えないと仕方がないことや教育長が言われた行政コストについても説明していく必要がある。 また一方で、人口が減少していく中であっても、中央部においては全国並みの教育環境をできるだけ残すことは我々の義務だと考える。</p>
<p>教育長</p>	<p>少子化の話が出たが、日本の歴史始まって以来の急激な少子化で、社会も大きく変わっていかざるを得ないと思う。みなさんもそういう意味では、変わらなければならないということは分かっているが、いざ各論になるとなかなか一歩が踏み出しにくいところがあると思う。行政としては、今一歩踏み出そうとしているところである。 また、コストの話が出たが、今回は基本的に教育環境を整備するというので、コストのことは少し後に置いており、あまり考えていない。しかし、大きな目で見ると、中央部では統合してより大きい規模の学校を残すことで、運営コストは下がり、教育環境は良くなる。このような選択肢がありながら、それをしないのは教育行政として、いかがなものかという考えがある。ただ、辛いのは統合する際の移行期間中に在籍する生徒については、移行期間中に全校生徒数が減ってくるので、そういった面での問題がある。そのため移行期間については、最大限の配慮をして取り組む必要がある。 この案が公表されてから、ご意見も署名もいただいている。母校愛があることや地域の方が学校を愛してくれていることは非常に嬉しいことである。 情の部分では苦しいが、将来を見据えて、何が教育行政としての責任なのかを私自身は考え、このたたき台をお示ししている。</p>
<p>委員長</p>	<p>県外の場合、適正規模を4～8学級とした場合、4学級を切れば募集停止という考え方でやっているところもあると思うが、状況としてどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>県によってまちまちである。</p>

	<p>平成 15 年策定の再編計画では、過疎地域でも 1 学年 2 学級であり、1 学級になると統廃合するという基本的な考え方であった。全国的にはそれが普通かもしれない。</p> <p>今回のたたき台は、地域に代替がないため、地域政策として過疎地域は 1 学級でも残すとし、さらに 1 学年 20 人確保できれば残すとしている。ただし、その計画は、例えば部活動も満足にできなくなるなど、教育環境としては良くないと思う。</p> <p>議会で県立学校の非常勤講師の問題が出ていたが、高校になれば選択科目数が増え、小さな学校ではその教員を配置できないことから、特定教科の非常勤の教員は学校を掛け持ちして教えている状況がある。その教科を選択する生徒がいるから、それに対応しなければならないが、質の高い教育ができるかという疑問が残る。「教員が頑張ればできる」と言えば、それはそうだが、仕組みを作っていく教育行政の立場から言うと、それはあまり良い仕組みではない。本来は、たくさんの色々な教科の教員が集まり切磋琢磨し、生徒にとっても友達同士が刺激し合って成長していく環境を作らなくてはならない。</p> <p>しかし、この高知県の地理的条件、過疎の状況を踏まえると、過疎地域でも学校を残さなければならず、もっと頑張ってみようということで今回のたたき台をお示ししている。</p> <p>ここまで過疎地域の学校を残すと明示したものは全国にもないのではないかと想像しており、他県への影響が大きいのではないかと考えている。</p> <p>一方で、中央部はいい環境を整える手法があることから、それに向けてやっていきたい。</p> <p>先ほど、いい環境を作り、なおかつ行政コストも安くなる話をしたが、運営コストは安くなるが、統合することで新たなハード面の投資は別途行政として必要になってくる。</p>
委員	<p>高知南中高校の話し合いの中でも、「私立の定員を減らさないのか」との話が出ていたが、参考資料 1 の表の私立中学校の卒業者数の推移で、10 年後に若干増えている。これはどういう試算からのものか。</p>
教育長	<p>要は、高知県の人口動態とは関係なく、私立学校の定員があり、最近 3 年間の数字を取って、それを推計しただけの数字である。これは私立学校の経営戦略がどうなるかによって分からないので推計のしようがなく、このような数値にしている。</p>
委員長 教育長	<p>高校の定員減は、現在の普通科と職業科の割合で考えているのか。</p> <p>そこは非常に大きな今後の高等学校の経営戦略になってくると思う。全国的に、高知県は普通科の割合が低く、大学への進学率も低い。この現状からすれば、年々進学率が高くなってきていることもあり、普通科の割合を増やしていくことが一般的な考え方だと思う。ただ、専門高校から大学へと進学する生徒が増えるなど大学への進学方法も変わってきた。新たな選択肢が多くなってきており、これをどう考えていくかということがある。高知県の場合は、高知工科大学ができて、工業系の高校から高知工科大学、大学進学、短大進学が増</p>

委員	<p>え、大学進学率が上がっていると思う。大学進学率を上げなくてはならないから、単純に普通科の割合を増やすという考え方はせず、生徒の多様性を考えると色々なやり方があるので、今後考えていかなければならない。</p> <p>人口の推移であるが、高知県の中学校の卒業者数の底は何人くらいで、何年後かについての推計はされているのか。</p>
教育長	<p>そこまではしていない。高知県の人口が2035年には57.6万人くらいまで減るといふ推計がある。毎年生まれてくるお子さんの数は減り続けているが、これが増えないと人口増にならない。出生数が減るといふことは、その方々が大人になって産む子どもの数がまた減るといふことである。出生率の問題もあるが、そういったスパイラルに入っているのだから、いつ上向くかといふのは推計できない。このままいくと人口ゼロといふことになる可能性がある。</p>
委員長	<p>中学校の卒業者数は、戦後のベビーブームで生まれた子どものジュニアによる平成元年がピークである。戦後、大きな波が繰り返して来たが、次の山が見えてこない。</p>
教育長	<p>委員長がおっしゃったように、団塊世代がすごく多かった。その団塊ジュニアが子どもを産んでいく時期に来ており、山がくると思っていたが、山が来ない。日本全体で見たら、危機的な状況であることから、政府は子育て支援を一生懸命やっている。少なくとも消費税から7,000億円は子育てに使うとしているが、それでは不足1兆1千億円はいるとしている。出生率が2.12までいかないと人口維持ができない。高知県は1.43とどんどん減っている状況である。</p>
委員長	<p>人口減少の中で、中山間部の学校は最低1学年20人という考え方は、高知市内とは違っており、その意味についてはもう1回資料を出していただきたい。中央部では規模の大きい学校が必要だといふ話が出ているが、中山間部には小さい学校があり、できるのではないかといふ話が出てくるので、それに対するお答えをしておかないとまた混乱すると思う。</p>
教育長	<p>中山間部だけを分けて考えるのは疑問である。県として考えた場合、市内のように選択肢のある生徒は恵まれているが、中山間部で頑張っている生徒や教員のことももう少し考えないといけないと思う。</p>
委員	<p>中山間地域で良い教育環境にしようとするれば、学校を統合して全寮制にする等しないと学校としての教育環境は整えられない。</p> <p>人々が地域で生活し、働いており、そこに学校がなくなると寂れるから学校を残してほしいという要望や地域政策がある中で、教育行政の仕組みとしては、教育環境はどうしても悪くなるが、一生懸命カバーしながら維持している現状である。</p> <p>6学級と4学級のどこが違うのかの話があるが、県議会ではボディーブローのように効いてくると言ったが、表現としては成人病の方がいいかもしれない。そこにいる方々は、自覚症状はないのだが、知らないうちにいつの間にかだんだん教育環境や活力等の問題が出てくるのではないかと思う。そうしたことから、高知市内では元気のある学校を維持できるので、そういった学校に行く選択肢を子どもたちに与えることは、教育行政として必要なことだといふ思いで</p>

<p>教育長</p>	<p>提案している。</p> <p><なぜ高知南中高校なのか></p> <p>この部分は説明しづらいところである。まず学校を統合していこうとしたときに、専門高校は数多くあるわけではなく、工業高校や農業高校などでは生徒減への対応は学級数（学科数）を減らして、学科の改編といったことで対応しなくてはならない。</p> <p>そうすると学校を統合する場合、専門高校を除いた普通科、総合学科の学校で考えていくことになり、そうしたときに、オンリーワンのな学校は残していかなければならなくなる。一番分かりやすい例で言えば、県立高等学校の中で追手前高校をなくすか、北高校をなくすかとなると、それは違うということになる。そこで学んでいる生徒が他に行けなくなるような統合の仕方はいけない。そのように考えると、一定絞られてくるが、そうした中で、市内の学校で津波の問題はどうしても避けて通ることができず、総合的に考えて高知南中高校をそのまま置いておくというのは問題があると考えた。</p> <p>では、そのまま高知南中高校をなくすかというところではなく、そこで培ってきたキャリア教育や国際理解教育を次にうまく活かせられないか、あるいはバージョンアップする方法や高知県全体の今後の高等学校の中で目指すべき方向に合致するやり方があれば、それを選択すべきだということで今回の案にしている。</p> <p>複数案を出すべきではないかという保護者の方々からの質問は、例えば高知南中高校を残す案、残さない案ということなのか、それとも今は高知西高校と高知南中高校の統合案であるが、そうではなくA校とB校の統合、あるいはC校とD校の統合などの複数案を出して議論すべきではないかということなのか、具体的にどのような案のことをおっしゃっているのか分からないが、少なくとも我々が考えた場合に、今は高知西高校と高知南中高校であるが、そうではなくA校とB校を統合する案、あるいはC校とD校を統合する案として、そのまま出して選択を迫るような提案はすべきではないと思っている。</p> <p>現状でもお分かりのとおり、皆さんに母校愛があり、母校を大事にしている。そこへその思いがぶつかるような、“どれがいいでしょうか”というような提案の方法は学校間の対立と混乱を生むので、それはすべきではない。高知南中高校を残す案と残さない案、あるいはその高知南中高校と高知西中高校の統合の方法については考えていかなければならないと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>南海トラフ巨大地震のことももう少し全面に出すべきではないか。高知南中高校の場合、学校も順調で部活動もある程度成績も残し、教育長がおっしゃる母校愛も分かるが、中高校で1,000名の生徒の命を守ることを考えた場合に、そこに置いてはならないと思う。</p> <p>さらに高知工業高校と比べられるが、高知南中高校は中学生がおり、体験したことのない地震に適切な行動がとれるのかといった不安もある。</p> <p>もう少し地震のことを重く考えて説明した方がいいと思う。</p>

<p>教育長</p>	<p>我々は地震のことをかなり説明しているつもりであるが、一方では地震を口実に学校を廃止するのはけいしからんというような意見もいただいております、どのように説明したらよいかと思っています。</p> <p>高知市内では、一番リスクの高い学校であるが、いくつか惑わせる要因がある。1つは高知南中高校自身が地域の方々の一時避難所になっており、安全だからいいじゃないかという意見がある。校舎が4階建てなので、一時避難場所として、津波の高さや浸水深はクリアできるが、今まで説明しているのは長期浸水による学校再開の問題である。成長過程の大事な時期に、長期間にわたって学校が再開できないことが想定される。</p> <p>しかし、これは高知工業高校も浸水深は一緒であるという意見もあるが、少し奥に立地している。高知南中高校の周りでは、目の前に太平洋セメント、宇治電化学工業の工場、五台山には石油基地がある。また目の前には大きな船がある。そうしたことから被害も想定をしておかなければならず、そうするとその分の身の危険もあるが、学校再開に長期間を要してしまう。</p> <p>高知工業高校もリスクはあるが、高知南中高校の方がはるかにリスクが高く、そのリスクをクリアしていかなければならないと考えている。</p> <p>今回の県議会でも議論があったが、南海トラフ地震対策で一生懸命対応をしている今の状況の中で、ひとまずは命を守るということで避難場所を策定している。そういう意味で、高知南中高校は浸水深からはクリアできるので、一時避難所に指定されている。</p> <p>しかし、校舎など避難ビルは二次避難ができない。山があれば山に上がり、そこまで津波がくればまた上がっていけるが、校舎はできない。</p> <p>気仙沼の津波火災が頭に焼き付いているが、二次避難ができない場所での津波火災などを想定するとぞっとする。</p> <p>そうした被害を出さないために、一生懸命に色々と考えている。例えば、その周りには、船や車、工場など燃えるもの（燃料）がたくさんあるが、現在、園芸ハウスの燃料タンクが倒れたら自動的に蛇口が閉まるようなタンクを開発している。</p> <p>対策は、色々一生懸命やっているが、東日本大震災のような大地震が来たときには想定できないものが出てくることを想定しておかなければならない。</p> <p>将来のある中高生がああ場所にいて、L2と言われるような地震が起きたときに、私は教育行政の責任者として高知南中高校をあの場所に置いておきたくない。</p>
<p>委員</p>	<p>「なぜ高知南中高なのか」の考え方を文章で書いているが、文章で書くと“言葉でごまかされた” “いいように言葉を使っている” というイメージをもたれるのではないかと思う。</p> <p>教育長が言われた、“なぜこのようなたたき台が出てきたのか” という県教委の思考回路を順番に、専門高校は残すということから始めて、特殊な学校は残すというような消去法でだんだん絞られ、今回の震災想定があって高知南中高校になったという思考回路を順番に説明するフローチャートのようなもので</p>

委員長 教育長	<p>示せば、もう少し理解をしてもらいやすいのではないかと感じる。</p> <p>個々の細かい説明については、この形でも構わないと思うが、高知南中高校の関係者がこの文章を読んでも、県教委にとって都合のいい言葉を使っているのではないかというイメージを持たれやすいと思う。私自身は今の教育長のお話がすんなり心の中に入ってきたので、そういう説明の仕方でも検討したらどうか。</p>
委員長 教育長	<p>学校再開ができない場合、どのように対応するのか。</p> <p>東北では遠くの学校に無理矢理スペースを確保して、そこへ通うことを強いている。義務教育と高等学校では違いがあると思うが、児童生徒たちは家族で避難をしているのでバラバラになり、児童生徒の数が減っている。3年経ってもまだ再開できていない学校がたくさんある。</p>
委員長 教育長	<p>高知市では多くの学校が低い場所にあることから、近くの学校へ通学するというわけにはいかず、もう少し遠くに通学しないといけないのではないかと想定するが、どこまでその影響が出るのか不明である。</p> <p>いずれにしても教室数に余裕がないので、1つの教室に40名入れているところに60名を入れる等してスペースを確保するしかない。</p>
委員長 教育長	<p>そうなるものすごく混乱することが想定される。</p> <p>その混乱は学校だけでなく、保育所も同じである。特に保育所は大きな問題で、復旧・復興のためには大人が立ち上らなければならないが、保育所がなくなり、保護者が子どもの面倒を見ていたら、その方は復旧・復興に立ち上がれないという問題になるなど、それぞれの年代で色々な問題が出てくると思う。</p>
委員長 教育長	<p>県内の大学でも学校再開をどうするかを協議している。地震は起きてみないと分からない部分はあるが、想定外のことを想定しておかなくてはならないと思う。</p> <p>南海トラフ地震は来ると思って対策をしてきたが、その想定が今回の3.11ですっかり変わってしまった。別な言い方すると世の中が変わってしまったというほどの大きな転換であり、今までの対応策を根底から見直しをしている。県は一生懸命やっているが、全てに対応できているわけではなく、まずは命だけは守ることから始めて、今はやっとBCPの話を始めたとところである。</p>
委員	<p>教育委員会は、これから学校のBCPを考えていかなければならないという状況である。</p>
委員	<p>前回の協議会でも意見が出ていたが、私も3.11の映像を見て、価値観など色々なことが変わった。テレビで、津波が起きている中でガスボンベが破裂して火災が起きたことを放送していたが、あのような映像を見ると、想定外のことを想定し、最大限リスクを回避しなくてはならないということは明らかである。</p>
教育長	<p>統合は、高知南中高校の方々にとっては大変な心労になり、納得は得られにくいかもしれないが、先ほどからの議論を聞くなかで、何とかご了解していただくしかないのかなと率直に思う。</p> <p>津波被害の関係で、開会中の県議会では、「なぜ高知南中高校なのか」の質問</p>

	<p>の中で、“高知工業高校も危険ではないか”、また“危険な学校は他にもあり、全ての計画を同時に出すべきではないか”という意見があったが、一回ではなかなか計画は作ることができない。</p> <p>須崎高校は今回計画を出しているが、危険な学校は、西から行くと宿毛高校、清水高校、海洋高校、安芸高校、それから高知南中高校である。</p> <p>学校が津波から逃れる、移転するためには土地が必要である。土地があっても高校単独で行ける場合もあるし、地域の市町村が全体として高台移転計画を作っているところもある。そういった諸条件とも整合性を取る必要があり、一気に計画を立てられないが、でき次第、分かり次第、我々は手を打っていくという基本姿勢である。須崎高校と高知南中高校は、高等学校の再編計画を策定していかなければならない中で、統合によって津波からのリスク回避ができるのではないかと考えて計画している。</p>
委員長	<p>グローバル人材に関する意見をいただきたい。これは、突飛なことではなく日本全体の教育の流れの中では避けては通れない問題である。その点は良いか。</p>
教育長	<p>少し説明させてもらいたい。</p>
	<p>国際バカロレアについては、馴染みがないためになんか変なものが出てきたと思ったかもしれない。そもそもグローバル教育についての理解が十分得られていなかったため、国際バカロレアは英語で授業をするものであり、高知でやる必要があるのかという意見があった。</p>
	<p>グローバル人材の育成は英語を話せる人材の育成だけでなく、世の中で生きていくために自立した人間、世界で通用するような世界基準の人材を育成しようとするものである。これを落ち着いて考えると、現在我々が行っているキャリア教育で育てようとしている人材を突き詰めれば、グローバル人材の育成につながる。グローバル人材の育成の観点から、国際バカロレアは先頭を走っていると言える。</p>
	<p>今回の案では、高知西高校の一部にこれを作り、その取組の先頭を走るだけでなくグローバル人材育成の取組成果を他の全体にフィールドバックしていく。そういう方向で高等学校教育の全体として、グローバル教育を進めていかなければならない。先頭を走る学校で教職員が実践し、それを他の学校にフィールドバックすることができる学校にする必要がある。</p>
委員長	<p>また、将来を見据えた計画を策定しなければならないと思っており、現行の計画は「再編計画」であるが、今回は「再編振興計画」とし「振興」を付けている。</p>
	<p>グローバル人材の育成は、日本全体の流れでもある。どこかの学校で先導的な役割の学校が必要であるといった時に、高知南高校と高知西高校が学校の特色として、これまでにやってきていることから、この2校が合わさるということか。</p>
教育長	<p>高知南高校は県内の高等学校の中でも早くから、先を見据えたキャリア教育の実践と国際理解教育を行ってきた。また、高知西高校は英語科があり英語教育をやってきた。これを合わせてバージョンアップし、県内の当該分野の先導し</p>

	<p>ていく学校を作ろうということである。</p> <p>前回の総務委員会でも、統合という流れのようだが、高知南中高校の閉校でないかという質問があった。確かに現在学んでいる生徒からみると、閉校のように見えるかもしれない。また、八田委員からも指摘があったので、もう少し工夫がいると思う。</p> <p>学校の設置者の立場からは、高知南中高校で取り組んできたことを新しい学校でさらにバージョンアップしていきたいという思いがあつての統合である。統合のイメージがそれぞれにあることから、少し違うと思う方もいると思われる。完璧な対等統合でないことは確かなので、そこは苦しいところである。後は、次に議論をしてもらうことだが、統合の方法の中で、その思いが具体的にになるような知恵出しが必要だと思っている。</p>
委員	<p>その意味では、教育長が言われたように、現在高知南高校に国際科があるので、それを統合の在り方の部分でそれをもう少し生かしていく方法を考えていくべきではないかと思う。</p>
委員長 事務局	<p>国際バカロレアは馴染みがないと思うが、現在、全国で認定校は何校あるのか。資料のP7に記載のとおり、国内では27校が認定されている。</p> <p>その多くはインターナショナルスクールである。</p> <p>各都道府県とも国際バカロレア認定に前向きな動きがあり、具体的に動いているのは東京都の都立国際高校であり、既に申請を行っている。その他、はっきりと表明しているのは札幌市で、佐賀県、千葉県などで前向きな動きがある。これは、県立、市立の話であり、そのような取組が各都道府県で始まっているところである。</p>
委員長 事務局	<p>平成26年度の文科省の指定はどのようになっているのか。</p> <p>平成26年度の指定は、スーパー・グローバル・ハイスクール（以下、「SGH」とする。）である。</p>
委員長 事務局	<p>SGHの指定について、どのように考えているのか。</p> <p>高知西高校の方で指定に向けて申請しているところである。</p>
委員長 事務局	<p>これは、全国でどれくらい指定されるのか。</p>
委員長 事務局	<p>全国で来年度50校指定される予定である。当初は100校であった。</p>
教育長	<p>指定については、来年度の指定で終わるものでなく、その後も続くものである。</p>
委員長	<p>国際バカロレアでの認定を目指していくうえで準備しておくものはないか。</p>
委員長 事務局	<p>人材確保が最も大事で、なおかつ大きな課題であることから、来年度から職員の派遣などにも取り組んでいく。</p>
委員長	<p>国際バカロレアの教育が世界標準の人材を育成する手法である。</p>
委員長	<p>グローバル人材の育成の大きな取組の中に国際バカロレア認定など色々なものがあるので、県民に対してグローバル人材の育成について、しっかり理解してもらう必要がある。</p>
委員長	<p>雲の上のようなものとの認識だと思うので、そういった認識をSGH事業の指定を受けながらグローバル人材の育成に取り組み、どういうことかをしっかりとお示ししていく。その先にバカロレア教育があるので、この5年間でしっか</p>

<p>委員長 事務局</p>	<p>りとSGHの指定を受けて取り組んでいくことが基本的な方向性である。 小中学校サイドからみた場合、このグローバル人材の育成の点はどうか。 小学校から授業の中に英語科が入ってきている。新しい学力観、学力調査からきていることだが、コミュニケーション能力の育成を前面に出しており、そうした意味でも英語科が重視されている。 そのような点からも子どもたちの英語力を高めていくことが小学校段階で求められている。 中学校では、それをベースにして、さらに外国語を専門的に習って行こうとするカリキュラム作りになっている。 以上のようなベースがあって、高等学校の進学の際に、そういった特性が生かされるものだと思っている。 こうした方向性で教育課程を見直し、パイロット校を作ろうとしており、そういった高校でコミュニケーション能力の育成を図っていききたい。 また、興味関心のある児童生徒には、専門的な学びをしてもらいたいと考えており、その道筋づくりに取り組んでいる。</p>
<p>委員長 事務局</p>	<p>こういう形で、高等学校で取り組んでいく方が、小中学校の学習の流れにおいても良いことなのか。 当然、今求められていることであるし、子どもたちもそのような能力を開発していかなければならないと思っている。その段階、段階で小学校からしっかり力を付けていき、高等学校でもそのような受け皿を作ってもらいたい。 また、高等学校との連携が大切で、今までの県立中高の連携だけでなく、今、子どもたちに求められている能力を伸ばすために、たくさん連携していかなければならない。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>高知南中高校の保護者からの意見にもあったように、作ってもニーズはあるのかどうかの議論があると思うが、今までの話によると、現段階では、今から開拓してくという話なのか。今の段階で、ある程度のニーズがあると見込んでの話なのか。 現段階で国際バカロレアの定員 20 名のコースを作った場合、現状ではそこに殺到するような状態ではない。</p>
<p>教育長</p>	<p>これからの子どもたちが、日本だけでなく世界の中で、頑張っていくためには、グローバルな視点をもった人材育成を日本全体で進めなければならないという基本的な考え方がある。 それに向けて、取り組む先に国際バカロレアが1つの視点としてあるが、生徒を集めるためには、これからの5年間で大事である。 その設置は、今の計画では平成 34 年なので、まだしばらく先である。それまでに準備をしていこうとしている。そのために、まずはSGHの指定を受けて準備を進めていく。 国際バカロレアやグローバルといった言葉を知らない人が多いことから、今、ニーズがあるかと言えば無いと思う。しかし、グローバル人材の育成は間違いなく必要となり、ニーズが出てくるはずなので、その時に先頭を切ってやって</p>

委員	<p>いる学校がないとうまくいかないし、グローバル・ハイスクール自体のレベルが低いものになってしまう。</p> <p>むしろ我々がこれからの教育を考えて、ニーズを作っていくぐらいの努力をしていかなければならない。</p> <p>社会的ニーズはあると思うので、言われたように保護者や中学生に対して、認められる学校にしないといけない。高知という地域性があるので、理念を明確にした学校づくりを行い、PRしていくことが重要である。</p> <p>色々な書物を見ていたら、明治の頃は、国語以外の授業はすべて英語で授業をしている学校がけっこうあったようだ。それだけ海外に学べという姿勢で教育を行っていたが、どの時代からそのような授業がなくなったのだろうと思ったことであった。</p> <p>当社も海外進出をしているが、工業高校出身者は「自分たちは、あまり英語をやっていない」と言って、とても難しいものとして捉えている。</p> <p>大手企業は海外に行かす人間は、英語ができる人間を送りこんでいるが、中小企業はそうはいかない。高知は海外に出ている企業が少なく、全国でも最下位である。海外進出している企業が多い県では、当然、このような教育へのニーズがあり、高知県とはギャップがある。</p> <p>これからの社会的ニーズであるグローバル人材を育成していかなければならないことは間違いなく、この地域の中でどのようにそのような学校を作り上げていくかが重要である。</p>
委員長	<p>現実的に、高知西高校でも高知南高校でも必ずしもニーズがあって入学している訳ではなく、そこをしっかりとやっていくことが大事である。</p> <p>社会的ニーズはあるということだが、高校を卒業した後、大学でその分野を学ぶことができるのか。また、バカロレア教育を優遇した推薦枠が少ないが、これから増えるのか。</p>
事務局	<p>国もグローバル人材の育成に関する諮問委員会を作り、「グローバル30」という国際化を目指す大学30校を指定している。先端を走っている東大、早稲田大、その他の国公立、私立大学が中心になっている。その中の話では、大学側が国際バカロレア教育を受けた生徒の受入先を作っていくことが大事であると回答が出されているので、大学の方でその動きが加速していくと思われる。具体的には、筑波大学がバカロレア枠を作ることを1月に公表しているおり、今後、続く大学が増えてくると思われる。</p>
委員	<p>余談になるが、海外に出る日本人は沢山おり、かつては父親が単身で行く場合が非常に多かったが、最近は大学進学を控えた高校生が、海外にいる親元に行きたがっているようだ。これは、帰国子女枠を狙いたいという考えであり、そのような流れも出てきている。大学の帰国子女枠、また、企業の方でも帰国子女枠があるので、高校2、3年生を海外で過ごし、その枠での進学等を考えている。昔は逆で入学を控えたら日本に帰ってきていた。そのように、色々な流れが変わっている。</p>
委員長	<p>なぜ、高知南中高校なのかと併せて高知西高校との統合について協議してきた</p>

各委員	<p>が、高知南中高校以外でなければならないという意見はないか。 協議の中で、震災対策も含めて今回の再編統合の中で検討しているが、これは高知市だけでなく須崎市も含めて、案として出していく。 この流れは了解していただけるか。 了解</p>
教育長	<p><高知南中高校の生徒が安心して学んでいただくための取組> これは、今のたたき台での移行期間を考えた時の取組であることを先に説明しないと意味が分からなくなる。</p>
委員長 事務局 教育長	<p>これは、今の取組の状態なのか。複数担任制の導入は今やっているのか。 現状は、担任と副担任であり、担任は一人である。 この部分は、議論が残っているが、どのように移行するかによって変わってくる。</p>
委員	<p>統合までは生徒が入学してくるが、統合のような場合には、入学生が減るので特別な対策が必要である。これには出ていないが、生徒数が減った時に、部活ができる十分な人数が集まらないことがある。その時には、例えば、高知西高校と合同チームを組むなど色々な方法があり、その間は特別な対策をとっていく必要がある。</p>
事務局 委員	<p>ここに出ているP 8のⅢは統合するという方向になった場合の取組であるのか。 たたき台で示した統合の進め方をした場合の取組である。 たたき台がどのようになるのか分からない状況である中で、既にたたき台を示した以上、現状の生徒たちの心情を考えなければならない。</p>
事務局	<p>この取組は、たたき台の方向性の有無に関わらず、すぐに取りかからなければならないものもあると思う。 委員の言われるように、発表後はスクールカウンセラーの配置など、生徒たちの心のケアは、高等学校課、人権教育課、学校長とも連携しながら取り組んでおり、すでに定期的にスーパーバイザーも入っている。 また、アンケートも取り、問題がある部分については個別に対応し、子どもたちの心の変化については、細心の注意を払っている。この取組を踏まえながら、次の手を打っていくことを考えている。</p>
委員長 事務局 委員長	<p>今まで生徒たちに対して具体的な対策をしてきたか。 生徒、教員にアンケートを行い、現在集計中である。 実態に応じて適切な対応をとっていくことが大事になる。今後、本格的に計画が進んだ時の精神ケアの取組、学級内外での教育効果を高めるための取組などについては今後も検討していく。 今は、生徒たちの精神的なケアを中心とした対応をしており、今後も生徒たちのケアは十分に努力して欲しい。 事務局に対して特に要望はないか。 このような方向で確認をしたい。今日はここで、高知南中高校のことは終わり</p>

	<p>にしたい。</p> <p><須崎高校と須崎工業高校との統合について></p>
委員長 事務局	<p>全国的に工業高校と普通科高校が統合された事例はあるのか。</p> <p>全国に42校あり、四国内では愛媛県の宇和島の吉田高校、香川県の善通寺第一高校がある。善通寺第一高校は、現在は普通科とデザイン科で、吉田高校は、普通科と機械建築工学科、電気電子科である。</p>
委員長	<p>普通科と工業科の併置校の事例を研究していく必要がある。</p> <p>2つの学科のカリキュラムが違うことから、単なる数合わせになっていくと学校がバラバラになる可能性がある。</p>
事務局	<p>そうかといって融合となると2つの科の特色が失われる。</p> <p>これまでも普通科と産業系専門学科の統合した高校を訪問して、直接話を聞くなど情報の収集にも努めてきた。なお普通科と工業科の状況についても把握していきたい。</p>
委員長 教育長	<p>個人的に思うことだが、違っている部分は完全に違いを認め、一緒にすべき部分は一緒にすべきである。この区別をしっかりとしていくべきであると思う。</p> <p>保護者の意見に、新しい学校のイメージが湧きにくいとの話があった。本日の資料にも書いてあるが、もう少し具体的に示すべきではないか。</p> <p>委員長の意見も1つのイメージだと思うが、少し分かりづらい。学習については、それぞれの学科の特色で行い、その他の部活動など色々なものは一緒にするというイメージを持っている。</p> <p>特色を出す必要があるので、そのようなイメージになるのではないかと考えている。</p>
委員長	<p>融合すると中途半端になるので、思い切って両科の特色を認め、1つの学校として特色を活かしていくべきではないか。</p> <p>今、普通科から工業系の大学に進学したり、工業系に就職したりする生徒もいる。その意味では非常に良い勉強になるし、この逆の場合もまた勉強になる。ただ、中途半端が最もいけなく、部活動や体育祭などは一致団結できるようにする必要があり、特に校長の力量が結構問われる。</p> <p>教職員の体制も今までの発想だけでなく、その他の考えも必要である。校長が普通科の校長か工業科の校長かでも変わってくる。両方をまとめられる校長が就かなければ学校運営が厳しくなる。</p>
委員	<p>高知南中高校の時に、文章だけでは分かりづらいとの意見があったが、この場合についても、このような科になり、教員はこうなるというようなものを図示していただきたい。併せて、運動部・文化部の部活動はこうなりますと図示してもらったほうが分かりやすい。</p> <p>私は、今後の生徒数を考えると、統合後の生徒数、学級数は、高吾地域の拠点校としてなり得る良い案だと思う。</p>
委員	<p>須崎高校と須崎工業は文化が違う学校が一緒になる。保護者の意見にもあり、今の議論が出ているように統合後の姿をもう少しきちっと描く必要がある。</p>

事務局	両校とも学科を減らし、5年後の統合に向けて進めるが、5年後の姿の募集定員の120名より現在の入学者数は少ない。現実とのギャップがすでにあるが、どのようなステップを踏むのか、5年後までは4学科のままで行くのか。統合時に3学科になるので、統合の2年前から3学科で募集を始めたいと考えている。
委員 事務局	そのことは、保護者に説明しているのか。 前に示した検討案の中でスケジュールは提案しており、その範囲内で説明している。
委員 事務局	今40名学級なので普通科が80名を切った場合は2学級になるのか。 そのとおり。
委員長	普通科の場合は、生徒数が定員に足らなければ学級減になるが、専門学科の場合は学科改編が伴う。
事務局 委員長	工業科は学科があるので、簡単には学級減にできなく難しい。 専門学科は高知県の産業を支えているということで、普通科のように生徒数が少ないからといってすぐに学級減にはできない。 特に須崎工業高校については、伝統と実績がある。全国的に見ても造船科は全国で1校である。それが残っていることは、実績を上げてきた証拠である。その絡みがあり、入学希望者は少ないが卒業してからの出口での実績は素晴らしいものがある。
教育長	須崎工業高校の特色は造船科であるが、中学生はあまり希望しない。しかし、入学してくれれば、きちっと指導し就職は100%であり、就職に関しては引く手あまたである。しかし、造船の就職先は県外であるので、県外に出ていくことに対して抵抗があるのか、難しいところである。
委員長	須崎市は造船が盛んであることから、地元の人材育成、地場産業にも貢献しているのか。
教育長 委員長	地元での募集が少なく、今は県外に就職している。 委員からも学校規模が大切であるとの意見があった。 方向性について特に異論はないだろうか。 統合後の組織の作り方などについて他県の実践例を研究し、他県で課題に対してどのような取組をしたのかなどを調べて取り組まなければならない。 両校とも歴史が長く、OBの考え方もあるので、その意見を聞きながら進めていかなければならない。
教育長	須崎工業高校の方が、卒業生の愛着があり思いが強い。 校名から「工業高校」がなくなるのはいかがなものかとの意見がある。 また、「工業高校」であるから全国から求人票が来るとの意見もあり、正直なところそこが悩ましい。
委員長	須崎市のJR沿線の生徒は高知市の高校に通学しているが、津野町はしっかりした教育をしているので、受け皿として、しっかりした高校にしていかなければならない。
教育長	須崎市や地元の地権者にも相談しなければならないが、今の須崎工業の通学路

	<p>の上り坂は狭く、今の須崎市の地形から津波対策を考えると新たな避難路としての通学路が必要である。大型車が入れるような2車線の新たな進入路を造る必要があると考えている。</p> <p>須崎市は津波被害が大きいと想定されているが、高台開発構想が市として進んでいない状況であり、今の段階でも須崎工業高校には広いグラウンドや校舎があるので、非常に当てにされている。それだけにしっかりと対応しなければならない。</p>
<p>委員長 教育長</p>	<p>須崎市の意見はどうか。</p> <p>市長には事務局が話をし、私は副市長と話をしたが、副市長からは、津波の対策や学習環境の話が出た。特に学習環境を良くするために、校舎敷地を広くしたいとの意向をもっていた。</p> <p>敷地を広げることや進入路を付けることは、費用がかかることではあるが、遅らせてはならないと思う。</p>
<p>委員長 教育長</p>	<p>本計画が進みだすと事務局の体制はどうなるのか。かなり協力体制を組まないでと学校統合ができないのではないかと。</p> <p>この計画の進捗状況に合わせて、仕事ができやすくするために組織改編していく必要がある。ただ、来年度は今の体制で対応していけると考えている。</p> <p>本格的に進みだすと色々な実務的なことや、細かなことが出てくると思うが、その時には別の対策が必要かもしれない。その時の状況に応じてやっていく。</p>
<p>委員長</p>	<p>須崎高校と須崎工業高校の2つの学校を統合する方向性は確認していただいた。場所は限定されるが須崎工業高校の地での統合となる。</p> <p>今までにない学校なので、研究し良い方向に進むようにしていかなければならない。結構な準備期間と経費が必要である。</p> <p>このような方向で確認していくことでよろしいか。</p>
<p>委員</p>	<p>来年度の早いうちに両校への学校訪問を事務局にお願いしたい。</p> <p>それでは、このような方向でいきたい。</p>